

江湖新聞

第九號



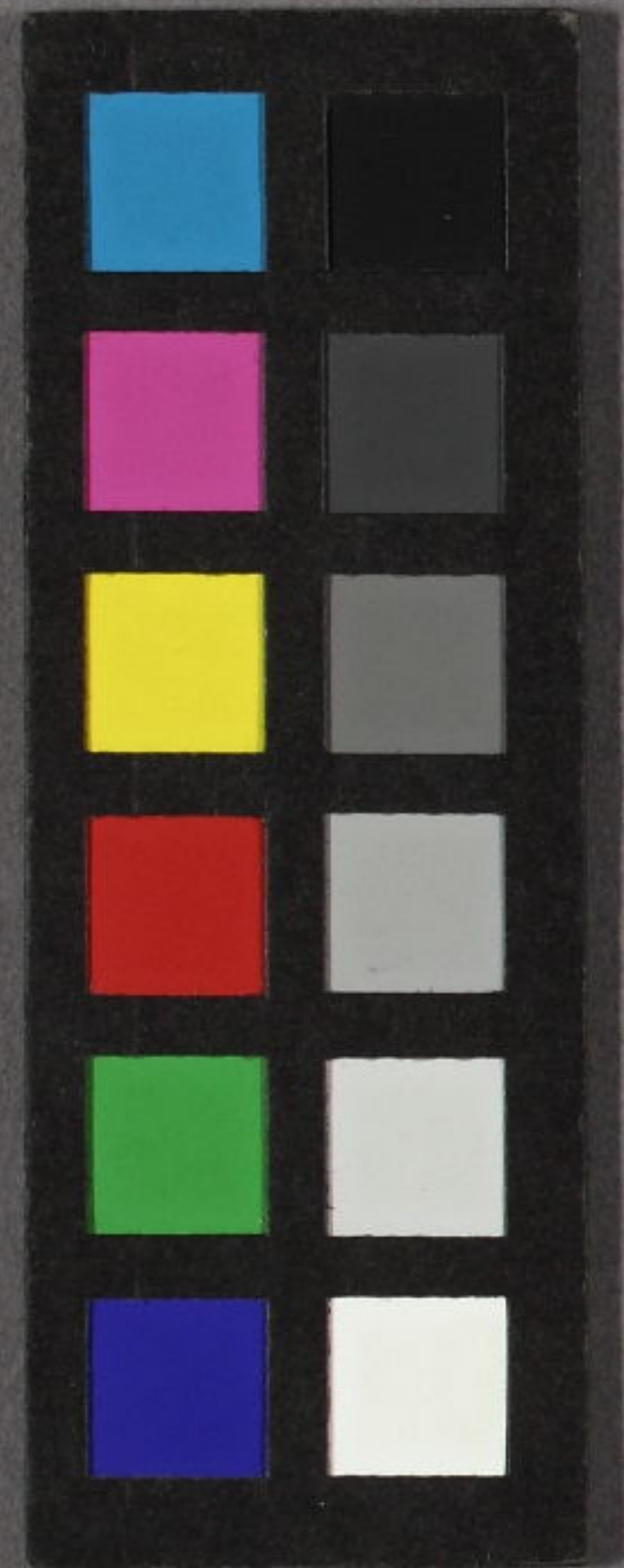
價八分

西垣文庫

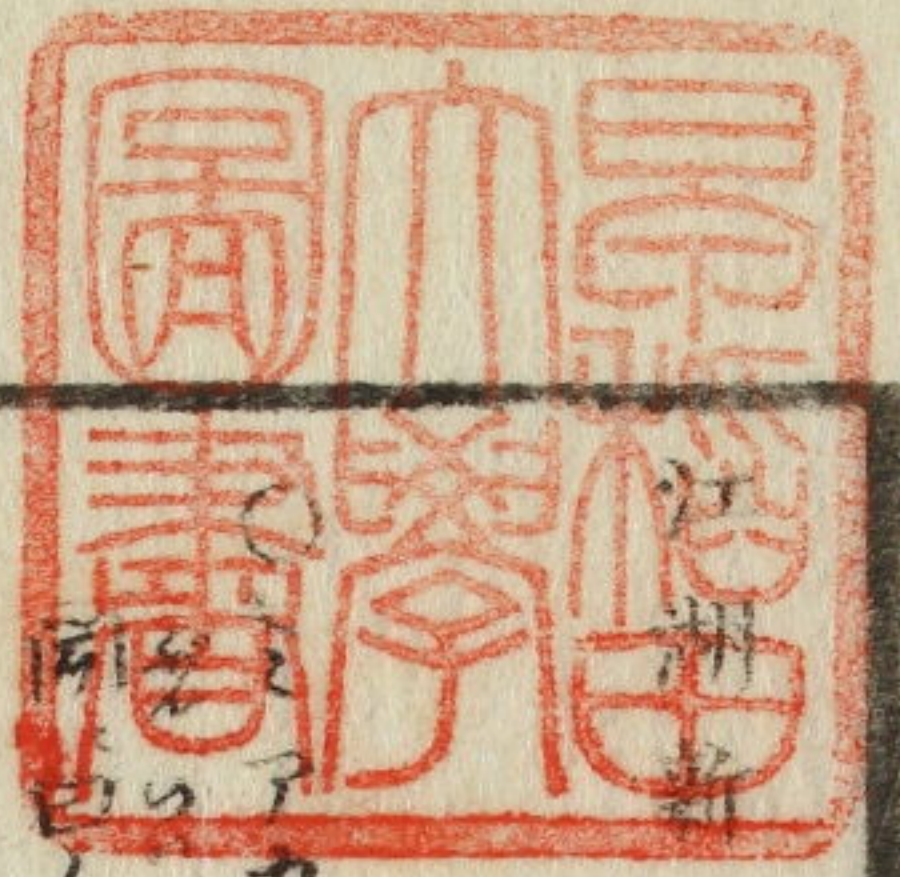
文庫 10

7287

9



特 文庫10
7287
9



江州新聞第九号

慶應四年戊辰閏四月十九日

横濱出板へラルト新聞紙之行

カとつる蒸氣船者十回より多し
上方ありて大に兵隊を集めて戸へ
是の會津方先鋒と兵に戸近く攻寄る
の不便極まり傳の人數多し
船之外ありて後傳の兵集著る

○ミアガ船一上方傳二十五百人
の不便極まり傳の人數多し
船之外ありて後傳の兵集著る

○大坂より新開と曰く
皇帝陛下へ去ル七日
所船を京都へ還す

上明二

六



控さるる漢河の西岸に兵隊を以て獲清し、河船の測不陸也
 京師まで扈從十上より 朝廷より會津の侵襲退く進つた
 たりと寧ろ説き及ぶとく諒く之を恐怖し玉つたりとを
 ○日中政府あり新く大坂表外西人居留地の測量を初る
 ○兵庫より新國に曰く去る十日早朝日本の兵隊戒装あり各
 兵器を携へ或ハインテール銃を持ち或ハスピールスに先也銃を肩
 小く大坂の旁に向ひて行進せり、其向所を問ひし小會津に其進
 京師に近き侵襲表す之は可なり、其 京都を獲清せん、其
 ありといふなり、其形勢あり、會津漢あり、銃怯謝罪せり、其
 りの全く虚説多し、

國四月十三日 由安申納言殿所 屯據之處在之、以達有之

涉書付し旨
 朝廷寛典と

河邊を以て徳川家名は、立下之間上下一同謹慎に在る之旨
 先達名あり、達並に此の交り前後脱走し、若く有之近日
 諸所屯集暴議相立ぬ、此全く徳川家名あり、能念お抱ぬ、其
 所業あり、其の始末あり、其の始末あり、其の始末あり、
 度り自徳緒局と所業あり、其の始末あり、其の始末あり、
 愚平之間向後會津恭順心得違ふ、其の始末あり、其の始末あり、

○
寛行十日同視之上家名ハ勿論相續知行等亦違ハ宜哉
下有之間所ハ抱於念各箇恭明ハ在事始

大総督官

河沙法事

後四月

東海道路振府

總督

印

田安中納言後

元龜陸奥家来
奉樂

出宮如去

松平肥後守跡送送お幕り尾張願新色一見通り後張

相阿比田直前丈規言ハ追討也 仰付の間其方ハ暇ハ下ハ

其力ハ遂ハ家功振ハ 仰付依之奉樂職國奉之務ハ向利

事ト免ハ

右ノ通り四月廿九日系仰高以 仰後在概得丹後守松平

其外之緒之度ハ同於取國也 仰候

○

誠後言田廣家老中振室以寄るもの先次 系部ハ之ハ

付上系せし交々方獲し候に勅王と志く有之候附る
此後開帳しつて是上首去九月二十二日也 信濃河内
自人の中冨涉信ては候重次等が涉谷中上右衛門尉
長州に獲らるる人宛長加勢長村丸丸門と中老部合
三人重次等の附添の同月廿四日系地獲是と也

官軍に加り江戸に來りたる尾浪殿兵隊の圍許切迫り候
總督府が立封鎖し上り候國世し也

○
當月二日岡州藩の内足五某外為人日光中禪寺に屯す候
來る所を石と名居内は奈込に獲二王門石階に上り長
るを止り候報打ども進まば依り長所は抱に好まき
は履し候 河内陣に上りあか一事見也 終小 河石と
進 河内陣に涉踏にむり涉腰掛を擲擲て 河内陣は
の懸を動し涉橋具に坐せ吐きまは猶 門にあり奥度上見
と其一同あて之を看め漸く兼知のう お出り候
此一候の日光の書信ありとて友人某寫來りて余亦一書に
切齒約腕せるもの也 抑日光中宮の候 神天を崇め候り候

武探丸と洪業を表し昇平鼓腹の大使を賜はせ奉りて思ふ
 朝廷より 官様を賜ふ 浙門皇とは揚ふ 朝怒りく返の密法
 五十年より六十余州の蒼生都野三尺と童子と籠たそそ崇すま
 度と都さるりのほし今美の大響よびて 官軍来下し清長
 士之小柳の日光に登らせし人もつり持とせむと自己の身か
 意し教礼を表せるより今足立某假令狂人よせ酒類とせよ
 かくをれ及ぶる何事ぞや世伴実と持らぬ猪り我 神恩を
 輕蔑せるのそなきは保て 朝廷をも侮慢せる鳴呼の志也
 考と云へし余曾て同昔某の候兵庫をさす捕公の墓門
 とる必らびし余し孫せむる後君を放を向ふ候曰く捕公の

王朝の忠臣千載の下武門の忠艦と仰くべき人之思ッその身
 正之位を造り賜ふるまねば余が下等にて一礼せんが忠節不致
 ても官位不承りても固より忠節ありと奉相國の墓前ゆく
 同格不棄あり後者又其故を問ひしに相國ハ無人を是た
 三公の人あり大元之旨に列り大位極官の忠りし人ら
 之を呼ぶが編号り又ハ姓氏官位を以て呼孫と云へし止む
 を得ば以名を呼ふ時ハつらば公の字を添へし是
 朝廷を尊崇しせる故あり相國を道と稱す官位を授し
 剥きたる者つらば所名を呼ばんまうまうく思ありまうま
 墓前をま打するのつらばまきやとあり候ハ寧々名分を

知り礼節を毎一方人とあご一今我 神君

朝廷の恩^{めぐみ}を極め給ふる事多う平相國の如きみ^{ごと}の功業^{こうごふ}
 の盛大なる^{せいだいなる}あふ補公の比^ひも^もんや百万の生靈^{せいじやう}を^を苦^{くる}み^みを^を
 救ひて^{すく}る^る平の安き^{やす}ふ^ふを^を礼^{れい}節^{せつ}の^の懿^い德^{とく}天下の^{てんか}人民^{じんみん}皆^{みな}よく^{よく}知^しり^りて^て
 尊^{そん}敬^{けい}と^と尽^つせ^せる^る所^{ところ}は^は是^{こゝ}に^に其^{その}さ^さう^うの^の心^{こゝろ}は^はあ^あま^まさ^さに^に貴^きぶ^ぶの^の分^{ぶん}
 を^を顧^こみ^みて^てば^ばう^うも^も身^みれ^れ不^ふ敬^{けい}の^の振^ふる^るを^をせ^せら^られ^れ武^ぶ士^しの^の儀^ぎ法^{ぽう}は^は云^いふ^ふ事^{こと}也^{なり}
 人間の道^{みち}を^を辨^わべ^べぬ^ぬ奴^{やつ}輩^{ばい}と^と云^いふ^ふん^んは^は天^{てん}人^{じん}兩^{りやう}を^を決^{けつ}て^て之^{これ}を^を
 免^{めん}ま^まの^の理^り故^こに^に余^あ今^{いま}の^の事^{こと}を^を公^{こう}布^ふし^し偏^{へん}く^く禮^{れい}儀^ぎを^を知^しら^らる^る
 め^めの^の發^{はつ}せ^せと^とん^ん

